

サカタニ・友の会

2005年・第9号・Vol.74

# とんからりん

2005年9月1日・集・西・楽 (株)サカタニ

075-561-7974 fax 075-561-6710

ファミリーマート・サカタニ京阪七条店・075-561-0162

ホームページ・URL <http://www.sosake.jp>

会員の皆さま。集・西・楽・(株)サカタニ

## 朝粥食べておシャベリ会

9月は第3日曜身内に祝事があり、第4日曜日  
9月25日にさせていただきます。

9月25日(日)9時スタート・終了10時30分  
当日は「のんびりストレッチ講習会」がありま  
す。

芋粥を用意します。

必ず前日までにご予約をお願いします。

# 酒屋大変

売組合の希望を斟酌して  
来年に延びるようだ。  
けれども自由化は進み出  
し酒売場のあるスーパー  
やコンビニは沢山できて  
いる。単に酒売場が増えた  
だけではなく、酒ディスカ  
ウンターも又増えた。価格競争が始  
まり、通常の酒小売店の仕入れ原価  
以下で販売する店もある。お客さん  
が減り、売れば損になる価格では将来  
がないと廃業や閉店されるお酒  
屋さんはまだ良い方、夜逃げ、自己  
破産、自殺する酒屋さんも出てきた。  
酒屋の持病は腰痛か椎間板ヘルニア。  
重量の酒ビールを担ぎ続けた故  
であろう。酒には酒税と酒税にも掛  
けられる消費税(二重課税)の重み  
も負担になる。日露戦争から太平洋  
戦争までの戦費の相当部分を酒税  
が占め、戦後も国家税収の大きな財  
源であった。その税収を確実に回収  
する仕組みとして免許制度と酒税法  
は強力な役割を果たした。

お酒(酒類=アルコール1度以上)  
は生まれた場所(酒蔵・ビール、ウ  
ィスキー製造工場)で造られると戸  
籍が付き卸~小売で売れるまで販  
売を管理できる方法がきめられて  
いる。この大変面倒な仕組みを維持  
しやすい方法として国は『酒類団体  
法』と言う法律を作り、酒類毎清  
酒・ビール・洋酒)販売業態毎(卸・  
小売)の組合をつくるようにした。

日本全体の経済発展拡大、産業構  
造、消費者嗜好変化、消費税などで、  
国税の中に占める率では、酒税は大  
幅に減少している。酒税が減ると財  
務省は現金なもので、酒に関心を持  
たなくなって来た。市内各税務署に  
数人いた『酒税担当税務官』は  
全市で数人に減らし酒小売組合も

4ページ地図物語の最終読物で  
「貞教」を掲載、その関連で貞教学  
区の酒蔵のことを先ず書くことに  
する。「貞教」学区は戦前上京区出  
水あたりと並ぶ酒蔵集中地区で5  
つの酒蔵があった。

本町(伏見)街道と大仏殿や社寺仏  
閣の門前町で有り豊富な鴨川伏流  
水に恵まれていたからで有る。

私の覚えている銘柄は「進歩長」月  
代(つきしろ)、「開化一」だ。「月代」  
と「開化一」は戦後も有ったし旧京  
都市内(洛中洛外)でも50弱の酒  
造蔵が残っていた。それが今は  
「佐々木酒造」の只の一蔵。それが  
1200年歴史、日本酒第2の故郷  
古都京都酒醸造業の姿である。その  
蔵を応援と「純米酒「美しい鴨川」  
を佐々木酒造で造ってもらい「鴨川美  
化基金」に協力をととも訴えて販売し  
ているがお買上げはまだ少ない。

10月から心気一転して取り組も  
うと思っている。ご協力を!

さて、ひと昔「酒屋さんはよろし  
いなあ」とよく言われた。

昭和13年酒販売免許、16年酒統  
制で政府の管理下で配給販売。何よ  
りも米不足酒不足の時代が続いた。  
戦後も昭和40年代まで販売は「マ  
ルコウ=公定価格」を引きずり、極  
最近まで酒屋の保護者は酒免許と  
大蔵省のような状態だった。

一昨年9月から免許許可の制限が  
緩くなり、昨年更に緩和され、本年  
には全面緩和の計画だったが、酒小

## とんからりん

10月から隔月発行になります

特売や新商品案内。お買物  
サービス券は毎月お届けします。

業者が減って困っているようだ。  
『金の切れ目が縁の切れ目』酒屋は  
使い捨てにされたようだ。札札  
町から『煙草屋さん』と共に可愛い  
看板娘が消えた。貞教学区に米屋さ  
んが無くなった。乾物屋さん・・  
それ専業では続けて行けないから  
だ。そしてそれが「酒屋」に順番が  
来たようだ。景気よくチラシ特売を  
していた『酒DS』の有ったところ  
が「更地」になっている。赤字続き  
で倒産したそうだ。今は「酒屋大変」  
の時代だ。よい酒を丁寧にお客様に  
お薦めして「酒屋」としても生き残  
ろうと思う。力を貸してと悲鳴を上  
げながら、続けていることが自分の  
ためお客さんの「為」になると信じ  
る『酒屋の阿呆』である。

10月から「ホームページ」  
が新しくなります。

4月以後ホームページ一部  
が更新できない状態でした。  
只今大改修しています。

今度のホームページには  
「ブログ」も有り皆さんが  
ご参加いただけるようにす  
る予定です。

会員さま用ページでご注文  
もお受けできるようにしよ  
うと思っています。

URL・E-mail アドレス共は  
変更ありません。

## ヨシイちゃんのヒトリゴト

分れ道一步違えばその三・  
死んだ後、生かされた！

満一歳までに生母から離された所為か身体が弱く、何時も看護婦さんが居て、診察が終わってお医者さんが石鹸で手を洗っている姿を、母屋から離れた蔵の二階、クゾールの匂いただよう病床から見ていた。肺炎、おたふく風邪、疫痢と病気がかりしていた。お医者さんが「学校まで育たない」と祖母に言ったほどの虚弱児、幼いときは外で遊んだことがない子だった。

それでも何とか貞教尋常小学校に入学(1940)したが、5月に「ジフテリア」に感染した。高熱と喉の痛みに、常の病気で無いと、たまたま円タク(タクシー)をしていた町内の金子さんの車が店の前に停まっていますそれに乗り府立病院へ祖母が運んだ。

一軒おいて隣の木村の小母さんに見送られて乗った車が内浜(七条河原町)を北に曲がった所までは覚えているがその後は私の記憶に無い。次に気が付くと病室だった。「気が付いたんか」と祖母の顔が見えた。「ウン」と何度も言ったが声がでない。返事が出来ない悲しさで涙を流す私に「喉の切開手術をしたさかい今は声は出んけど、もう大丈夫よから」と諭すように話しかけた。手術の結果ジフテリアは完治、学校へいくと友だちに「お前の病気で教室が消毒で真っ白になった」と言われた。今、ジフテリアは三種混合ワクチンの投与で1990年代の10年

間で21人、内死者は2人。だが1945年の1年間に8万6千人罹病、死亡率10%以上の恐ろしい病気だった。

後に祖母に、内浜から病室までの空白に何が有ったかのかと聞いた。病院に着いて、診察をした先生は「この子はもう死んでいる」と言ったが「死んでいても手術だけはして」と必死で頼んだと話「お祖父ちゃん留守中にお前を死なせるわけにいかへんし」と付け加えた。祖父喜一郎は富士五湖に旅行中だったことは確かだが、その言葉は芯(心)の強い祖母の照れかくしで本当は私が可愛い一瞬の勢いに、お医者さんが押されて手術したのだと

## 「五感を研ぎすまして」

今、集西楽のギャラリーカフェでは、宇治市在住の現代美術作家、ジロー・オオクラさんの『Hamadryad 木の精』という展覧会を開催中です。クスノキの板を裁断し、彩色した上で元の1枚の板に戻し、その断面にノミの痕跡を入れた作品・・と説明してもどんなものなのか思い浮かべるのは難しく、まずはご覧下さい、としかいいようがないのですが、会場に入ったとたん、不思議な香りがすることに気づかれることでしょう。クスノキのつんと鼻をつくような香りが、一瞬森の中に迷い込んだような錯覚を呼び起こし、同時にほとばしるような強烈な色彩が一齐に語りかけてきます。朝から夕へうつろう日差しのように、見る角度によって刻一刻と色を変える作品群は、雄大な時の流れさえ感じさせてくれます。このように今回の作品は、絵画、彫刻、立体などというジャンルを取り払い、鑑賞する方々の五感を最大限に使っていただく、実験的な試みをしています。「一枚の板をばらして、元の一枚の板に作り直すという考えは、この地球上に、人の存在より先に木の存在があったことに対する敬意の気持ちで、私にこのようなミニマルな控えめな行為をさせている」と、オオクラさんは語ります。今回は特

思う。

もし、金子さんの円タクが店前に停まって無く病院に5分遅着いていたら、祖母が医者言葉を真にうけて手術を強要せずに諦めていたら、今の私はない。幾つかの偶然が私の命を守って呉れた。私の命に必要性があるという何かの力が作用したのたのただろうか？

「お前は生きていたのや無い、生かされているのやで」常々、シツコイほど祖母の言葉を耳にしてきて、いつの間にかそれが私の思考と行動の礎のなっているようだ。

「生かされたのだから、  
精一杯の力で生きる」

別に奥のホールも開放し、会場そのものがひとつの異空間になっています。深海のような、あるいは地底のマグマのような広大な宇宙の真ん中に身を置いて、人間の存在そのものを問い直し、エネルギーに満ちた世界を感じてみて下さい。

(酒谷 佳子)

## 修行僧のハーモニー

「お〜」と編み笠に衣、「建仁寺」と書いた袈裟姿の僧が間隔を開けて次々と歩いてきた。東山には、禅宗の本山は東福寺もあり、厳冬、酷暑に托鉢修行が行事なのかこの辺りでは「お〜」の声と修行僧の姿は風物詩になっている。

僧達のお声は修行で鍛えられていて声もよく通る。それだけでなく、前後と中の声が三っ重なり心地よいハーモニーになっている。その声を耳にしていると僧達が夏の朝に流している汗もさわやかに見えた。お坊さん修行も大変やと同情した。と、若い僧が歩いてきたハーモニー変だ。その僧は片手を前に親指を動かしながら無言で近づく。「お〜」を忘れて夢中で「ケイタイ」に入力中。修行僧姿と「ケイタイ」このアンバランスに笑った。眼が合うと慌ててケイタイを懐に納めて「お〜」と声を出した。心中で今更遅いもう見たぜと言ったが「お〜」は正常な和音に戻っていた。合唱に合掌した。境内ではケイタイ禁止なのかなあ

## 駱駝はまだ眠っている

砂岸ある 著

かもがわ出版1680円・税込  
大垣書店・丸善・  
ブックファーストにて発売中。

## この指が悪い！

私このごろ「パー」ですねん。昔から頭は良くない、特に理数系に弱く「パー」は仕方が無いのですが、指が痛くて「グウ」がしにくいから「パー」ですねん。

数年前から、両手の親指以外が第一関節で小指の方向に曲ってきたのです。小指は反対に親指側へです。去年から痛みも感じました。

インターネットで「指先の変形」を調べました。便利な世の中、即判りました。老人になると特に原因も無く、指先が腫れて曲がる症状を「ヘバーデン結節」と言うのだそうです。症例を読むとピッタリ。

初めは赤く腫れて次第に竹の節のように変形して、痛みも伴う、一般的には「指曲がり病」と言う、ほとんどの場合第一関節だけで現在は確実な治療法は無い。

元来この指の関節は変形する角度が少ないので日常の生活には困らない。治療は、血の巡りを良くし、痛み止め薬か湿布剤を貼る対処療法しかなく、外科的治療も期待されないと書いてあります。

要は「諦めなさい」と言うことか。

この「とんからりん」私の手づくり、つい最近パソコン入力を「かな」から「ローマ字入力」に変えようと挑戦（若いでしょう）したのです。まだキーボードを時々（しばしば）見ないと駄目ですが義経（九郎＝苦勞の親父洒落）を重ねて、

幾らかは前進したのです。所がキーボードは「I（アイ）」と「O（オ）」が隣同士、「に＝ni」で「の＝no」です。指先がキーボードに少し馴染んできたところと打つと「に＝NI」と入れたのに「の＝NO」に（逆もあり）なってしまいます。もう30年近くコンピューターと友だち、印刷も自前、紙をさばき、枚数を数えに小指以外の指先を酷使してきました。

小指は、それで店を潰しかけた人を知っていて使わないようにしてきました。（うそ）

「に」と「の」が間違っても私は正確に入力しているのですが「指」が悪いのです。寛容の精神でお許しを。

### 集酉楽サカタニ 見もの・聞きもの 9月分と10月2日分

前回ご案内した、

「桃谷好英・素晴らしき折り紙の世界」好評のうち無事終了いたしました。が、私どもの予想をはるかに越える反響に、驚きの毎日でした。京都新聞や朝日新聞に取り上げて頂いた事もあり、遠くは広島尾道や姫路、神戸、福井などから大勢のお客さまがお越しになりました。折り紙に関する著作も300冊近く売れ、桃谷先生や折り紙に対する皆さんの情熱に感心しきりの毎日でした。

さて、9月も素敵な展覧会やコンサートをご用意しています。

現在、喫茶ルーム「集」では

「ジロー・オオクラ展」が開催中です。その後、懐かしの市電写真展「七条界限の記録」と題して、市電の本の編集にも

携われた、福田静二さんの写真展を開催いたします。懐かしい市電の写真の数々に、昔の思い出がよみがえる展覧会になると思います。

奥の楽々ホールでは、今や日本を代表するギタリスト、小松原 俊さんの「アコースティックギターのライブ」があります。心の琴線にふれてくる美しいメロディーに込められたやさしさ、懐かしさ、あたたかさ。その繊細なギターサウンドに是非触れてみてください。

10月2日（日）15時から、ブラジルのミュージシャンで、日本に滞在経験もある、

「ジョゼ・ピニエイロさんのコンサート」を開催いたします。1978年初来日、1995年帰国後、現在までほぼ毎年来日。音楽や語りを通して、人間にとっての自然の意味や、調和のとれた自然環境に対するグローバルな姿勢を伝えてくれます。保育スペースもご用意していますので、子育て中のお母さま方も安心して、ご参加いただけます。

いずれのコンサートも集酉楽サカタニで前売り・予約受け付けております。お早い目にご予約ください。前回、大反響を呼びました「駅伝ライブ」12月4日（日）に第2回目開催が決定いたしました。現在、参加ミュージシャン・スタッフ募集中です。

お問い合わせは集酉楽サカタニ・

酒谷宗男まで。

お知らせ 9月一部10月「催事」など

集 re 喫茶ルーム・入場無料  
9月24日（金）～10月23日（日）  
七条界限の記録  
なつかしの市電写真展

15回 音の風 音楽茶会  
日・9月25日（日）19時30分～  
会費・500円 飲み物代は込み  
・集 re 喫茶ルーム

9月2日（金）集 re・貸切。  
健康自ビール同好会  
9月3日（土）  
ハワイアンコンサート  
楽々ホール・貸切

集 re 喫茶ルーム・入場無料  
ジロー・オオクラ展  
「Hamadryad - 木の精」展  
クスノキを使った現代木彫芸術  
9月23日（金）まで

小松原 俊 （会場）楽々ホール  
アコースティック ギター ソロライブ  
9月17日（土）開催  
18時（開場）19時開演  
前売・予約2500円・当日3000円

10月2日（日）15時開場  
楽々ホール。  
ジョゼ・ピニエイロ  
らいぶ・コンサート in 京都  
料金2300円・予約2000円  
（1ドリンクおつまみ付き）

地図カンバン物語 第12話

ていきょう  
貞教..一部再

当社の配布した「まいど」(現・とんからりん)に平成8年(1996)3・4月号(VOL・10)掲載の学区めぐり「貞教学区編」を再録します。

学区めぐり「貞教学区編」

徳川幕府が倒れて2年後の明治2年下京第27学区として茶屋町(現児童公園)に建設されたのが学校の始まりです。明治10年(西南戦争)に豊国神社再建で、鞆町正面下る(現在地)に移転することが決まり翌年5月5日に遷校式が行われました(移転建築費用は5200円余)

校章は豊太閤に因み、瓢箪桐、校名は近衛篤磨侯の『章志貞教』の額から命名されたのです。その後も学区民の熱意で、拡張、増築を重ね今に至っています。

太平記にもしばしば登場する七条川原あたりのこの地、宇治、奈良への古道、大和路(現本町通)の沿ったこの付近は、豊臣秀吉の大仏殿方広寺の建築で大きく変貌します。伏見城と洛中を結ぶ幹線道路として大和路が伏見街道として整備され、大仏殿の正面通もこの時に出来ました。正面通には、茶屋、餅屋などが繁盛していました。本町正面上るについこの間まで(注昭和30年頃)有った『大仏餅』はこの時代から洛東名物になっていました。

六条坊門通の鴨川に石橋が架けられ、これが五条通となって鴨川東西を結ぶ幹線道路となり、町並みが形成されたのです。

それには西橋町の紙問屋の豪商柏屋さん(注・洛東遺芳館)や町の商人たちが、鴨川川さらいに再々多額に金子を寄進され町づくりに協力されたようです。

五条橋東詰の問屋町通りは江戸時代鴨東の市場街で青物干物の問屋が軒を連ね、上人町の『市姫社』はその名残を伝えています。

一筋東の鞆町通りは、刀、脇差、の鞘師や刃物鍛冶などの職種が多

一年以上続けた地図カンバン物語は今回で終了です。

第一話の三十三間堂・から、耳塚・京都女子学園・養源院・太閤担あたり・こころ坂ドンツキ辺・国立博物館・洛東遺芳館・豊国神社、方広寺・日吉さんあたり・河井寛次郎記念館・地図から消えた川・七条通・道楽、半兵衛麩・当社店頭地図看板掲載の所を書きました。今回の地図にない「貞教」についてで終わりです。

く、本町通りは典型的な街道の町、塗師屋町も塗師職人の町、南北の道は夫々個性と顔を持った町でした。

明治7年木造の七条橋が落成、明治25年鴨川運河(琵琶湖疏水)明治31年(注・1898)には豊臣秀吉公300年祭に『耳塚』の修繕と太閤担の整備、大規模な年祭も行われました。明治43年(注・1910)京阪電車が(注・天満橋~五条)開通。大正2年4月には市電建設に併せて、鉄筋の七条大橋が18万2千円(左右の欄干に1万5千円かけた)で完成。落成式には学区代表で大原桑吉氏(下堀詰町)が参加と記録されています。昭和10年豊国神社に大鳥居が建てられました。

近年、京阪地下化と七条通の整備で、町は少しづつ綺麗になって来

貞教学校ボロ学校、  
雨が降ったらザザ漏りで・

三年前に、修道校と併合になって貞教校から学童の姿は無い。建物と学区は残っているがこれも何れは消えるのだろう。開校から132年、明治11年鞆町正面下るに移転後でも123年間この地域の子供を見守ってくれた校舎。父、私、娘3代がそこで学んだ。何度か増改築されてきた。私が国民学校2年~3年の頃に校地が拡張され、木造2階建ての南校舎が建ったまま移動して、校庭が広く

思い出は風化する  
これからが大事

生有る者は没し、形あるものは無くなる。形がない「心」も風化する。敗戦直後、戦争は2度としないと憲法九条での非武装不戦の誓も、理想だけど現実的でないと言い訳をして年月が経過すると忘れる人が増えた。私達のように貞教校で学び遊んだ人間はもう増えることは無い。それ故に学校の跡地がどのよう

ました。けれども明治初年からの50年と比べるとかなりスピードダウンしています。学区内の人口も、特に若年層が激減、小学校の統合問題が検討されるかもと思われます。町中の産業が減り、職人さん、商店も少なくなってきています。そんな時NHKで『秀吉』が大人気、後2年の400年祭を期にこの町にある秀吉の遺産を活用したら、豊太閤も大喜びでしょう。

50年前、沢山の友だちと机を並べて遊んだ貞教校は元気でいて欲しいと念じています。折りしも、元気の大好きな、元気印の新市長さんが誕生、大いなる期待をしています。(参考資料平凡社史料京都の歴史、及び学区大観使用)

なった。その頃まで、古い校舎で修道一橋の学童から( ~ =中表題)歌でカラカワレ悔しい思いをした。5年生の時代、広がった校庭は「芋畑」防空壕になった。戦後も3回改築され昭和30年頃には東山区内で唯一の京都市立貞教幼稚園が併設、昭和48年には川端通りに面した所に独立した園舎ができた。ザザ漏りの校舎から新築の幼稚園までに至るには、歴代の教職員の方々や地域の人達の熱心な支援があったからだろう。中でも相当期間校長をされた、新宮新先生の教育界での政治力も大きかったのだろう。

になるのが気になる。同じように思っている人は多いと思う。貞教修道が併合で、改装して使われている旧修道校の設備を垣間見ると市内中心部の他の「併合校」と比べると同じ京都市立段差が大きい。ボロ学校で育ったので「ひがみ」があるのかも知れないが私にはそう見える。跡地も住民の声を聞いて欲しい。京阪沿線で交通アクセスの良いところだから、大託児所と老人施設の併合建物は如何がなァ!!